

郷土かわらばん

2017年1月発行

創刊号

流山市立森の図書館

電話 04-7152-3200

流山市に出版社があるのをご存知ですか？

流鉄流山駅前に「崙書房出版」があります！ 地元の出版社「崙書房出版」が45周年を迎え「崙書房出版45周年記念会」が開かれるというので森の図書館司書スタッフがお邪魔しました。



左から大竹トモ子氏・吉田次雄氏・金子敏氏・小林規一社長・記念会の発起人 大出俊幸氏

崙書房出版とは？

1970年(昭和45年)地方出版の先駆として千葉県流山市に創業。常総(常陸・下総・上総)地方の基本文献の復刻や、地域に根ざしたテーマを掘り下げた単行本を出版しているほか、「市史」など自治体・各種団体の機関紙など刊行しています。

1977年(昭和52年)に郷土史研究者らの手による書き下しの会員制で始まったふるさと文庫は最初の5年間で100冊を刊行。現在は213冊刊行されています。1988年(昭和63年)5月1日に現在の流山駅前に移転し、2015年(平成27年)創立45年を迎えました。

ろん

崙書房出版

千葉県流山市流山2丁目296-5

TEL:04-7158-0035

HP:<http://www.ron-syobou.co.jp>

崙書房出版45周年記念会ぶちレポート

平成28年9月24日(土曜日)南柏の日本閣で地域の活字文化を支える「崙書房出版45周年記念会」が開催され、地域の書店・地方小出版流通センター・新聞記者・郷土史の執筆者ら130人を超える出席者がお祝いに駆けつけました。

会場入り口には復刻出版された『千葉縣東葛飾郡誌』をはじめとする希少な本が並び、来賓の方々からたくさんのお花が賑やかに飾られていました。記念会では、流山市在住のノンフィクション作家の佐野真一氏が「知と歴史の等高線をしっかり足の裏に感じる本づくりをしている」と称賛を贈られていました。さらに、たくさんのお祝いの言葉が贈られており、地域の人々とともに歩んだ「崙書房出版」を郷土の誇りと確信しました。



祝辞を送る佐野真一氏

郷土コーナーの場所は3箇所あります

郷土コーナーの場所は

1. 図書館の一番奥の郷土コーナー (貸出のできない郷土・行政資料)
2. カウンター前の崙書房コーナー (ふるさと文庫などの崙書房出版の郷土資料)
3. 雑誌閲覧席前の郷土コーナー (広報や貸出可能な郷土・行政資料)



図書館案内図



2. 崙書房コーナー



1. 郷土行政コーナー



3. 郷土行政コーナー

カウンター前の崙書房コーナーにはふるさと文庫を主に貸出できる本が約350冊ご用意しています。また、貸出ができませんが貴重な郷土の本や資料も約400冊所蔵しており、館内でゆっくりご覧いただけます。



流山市は平成29年1月1日で市制50周年を迎えました！

1月29日まで森の図書館ガラス展示ケースにて「流山市制50周年～半世紀前はどんな年～」展示中です。

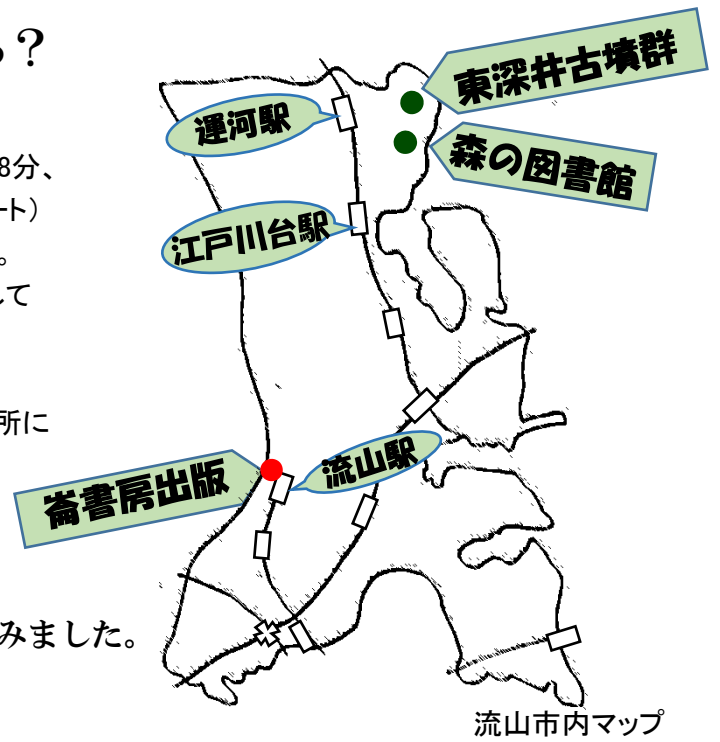
森の図書館と崙書房ってどこにある？

こちらは簡単な流山市内のマップになります。

森の図書館は東武アーバンパークライン運河駅からは徒歩18分、江戸川台駅(東口)からは流山グリーンバス(江戸川台東ルート)に乗車頂き、『森の図書館前』で下車すると直ぐ前にあります。流山グリーンバスは江戸川台駅から毎時00分、30分に発車しています。

流山市東深井古墳群は図書館のすぐ近くにあります。

一方、崙書房出版は流鉄流山線の流山駅から徒歩2分の場所にあります。



流山市内マップ

郷土について知る 1

森の図書館のお隣にある、古墳公園について調べてみました。

— 初石古墳群と東深井古墳群の発見 —



東深井古墳の森案内図

東深井古墳群の発見には、一風変わった経緯があるそうです。

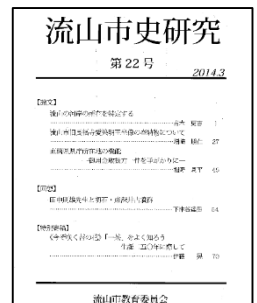
森の図書館にも所蔵されている、『流山市史研究 第22号』(流山市立博物館編 2014年3月)の64頁～69頁、下津谷達男「田中則雄先生と初石・東深井古墳」によると、きっかけは、町立野田女子高等学校の先生が夏休みに生徒へ土器採取を課したことから、とのこと。

“夏季休暇の宿題として、生徒の自宅近傍から土器・石器などを採集、持参させたところ、大量の遺物が集まっていた。

…中略… 新川村(現流山市)中野久木から通学していた生徒が、自家所有林から出土した円筒埴輪片を持参した。教頭先生は古墳からの出土と推察、生徒と共に現地踏査して山林中に小円墳があるのを知ったのである。” (64頁～65頁)

下津谷氏によると、東深井古墳群が発見されたのは、その「初石古墳群」と名付けられた小円墳の調査の見学に来ていた、当時東深井在住の新川村中学校の教頭の一言だといいます。

“当時新川村中学校教頭先生が見学においでになり、古墳を見て「この程度のものならうちの方に多数ある」とご教示された。…中略… 教頭先生にご案内をお願いし、その古墳群を訪ねたところ、山林を切りはらった後の台地上に、草深い墳丘が数基みられ、なかには墳丘上に白色粘土が散乱しているものもあり、殆んどが抜根などでかなり破壊されていた。” (65頁～66頁)



『流山市史研究 第22号』表紙

下津谷氏が書かれた「田中則雄先生と初石・東深井古墳」掲載の『流山市史研究 第22号』は、森の図書館で閲覧できます。この他にも森の図書館では、流山市内の古墳に関する資料を多く取り揃えています。古墳公園の案内マップも配布していますので、実際に古墳公園へ足を運ばれ、古代のロマンを感じてみてはいかがでしょうか。

参考文献：『流山市史研究 第22号』 流山市立博物館編 流山市教育委員会 2014年

協力：流山市立博物館